

図書だよ！ 第3号

令和7年6月18日 発行
兵庫県立飾磨工業高等学校 全日制 図書部

梅雨に入り、毎日ジメジメした日が続きますが、体調を崩していませんか？5月末に前期中間考査が終わった～！と思ったら、7月1日から早くも前期期末考査が始まります。中間考査で思うような成績が取れなかった人は、ぜひ挽回してください。3年次生は前期の仮成績が就職試験に結びついてきます。後悔のないように全力で取り組んでください。



放課後の図書室も利用しよう！

期末考査前のテスト勉強、家に帰ってからやろう！と思っていたのに…テレビ、スマホ動画、友達との SNS でのやり取り、ゲーム…誘惑が多すぎて、結局勉強できなかった😓…なんてことはありませんか？そんな経験のある人は、放課後の1時間だけでも図書室に来て、静かな環境で勉強に集中してみませんか？テスト勉強がはかどるかもしれませんよ。

また、毎日、レポートや課題の提出に追われている人も、帰る前に図書室で集中して仕上げてから帰るのもいいのではないのでしょうか？

ぜひぜひ、放課後の図書室も利用してみましょう！

全日制の図書室利用時間は放課後16：50までです。



図書部長 & 司書の

読書感想文におススメの本。



★本を読むのは苦手😓、という人には…

イクサガミ 天 （今村翔吾：著）



明治11年。「武技に優れていると自負する者は集合せよ」という怪文書により、高額賞金につられた強者たちが京都の寺に集まった。始まったのは、奇妙な「遊び」。配られた点数を奪い合い、東海道を辿って東京を目指せという。剣客・嵯峨愁二郎は十二歳の少女・双葉と道を進むも、強敵が次々現れー。滅びゆく侍たちの死闘、開幕！

※サバイバルゲームが好きな人にはピッタリな本。続編2冊も入荷予定！

あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。（汐見夏衛：著）



親や学校、すべてにイライラした毎日を送る中2の百合。母親とケンカをして家を飛び出し、目をさますとそこは70年前、戦時中の日本だった。偶然通りかかった彰に助けられ、彼と過ごす日々の中、百合は彰の誠実さと優しさに惹かれていく。しかし、彼は特攻隊員で、ほどなく命を懸けて戦地に飛び立つ運命だった一。のちに百合は、期せずして彰の本当の想いを知る…。涙なくしては読めない、怒涛のラストは圧巻！

※映画化もされましたが、私は小説の方が感動できました。何でも簡単に手に入る今の時代に「あって当たり前」と思っているものや、「居て当たり前」と思っている家族や友達や恋人…。80年前の日本の10代と今を生きる自分たちとの違いは？皆さんと同じ年代の人たちが、戦時下で一生懸命生き、何を思っていたのかを考えるきっかけになるかもしれない一冊。文章的にはそんなに難しくないので、読みやすいと思います。

★本を読むのは大好き！☺、という人には…

討ち入りたくない 内蔵助 （白蔵盈太：著）



筆頭家老の家に生まれ。一生裕福で平和に暮らせるはずだった大石内蔵助の人生は、主君が起こした松の廊下の刃傷事件によって暗転する。不公平な幕府の裁定を前に、籠城だ仇討だといきり立つ藩士たち。内蔵助は彼らをのりくらくらかわしながら、「藩士どもを殺してたまるか！」とお家再興に向けて奔走する。しかし、下からは突き上げられ、上からはそっぽを向かれる四面楚歌。やっつけられるか、こんなこと！

役割や責任なんて投げ出せたら楽になれるのに…。人間・内蔵助を等身大で描く、新たな忠臣蔵。

※人物描写が細かく、その人の性格から考えて、それくらいのことを言ったり、行動したのだろうと思わせていくところが面白い！歴史上の人物の心の内が簡単な言葉で明かされている。

手紙 （東野圭吾：著）



強盗殺人の罪で服役中の兄、剛志。弟・直貴のもとには、獄中から月に一度、手紙が届く…。しかし、進学、恋愛、就職と、直貴が幸せをつかもうとするたびに、「強盗殺人犯の弟」という運命が立ちをはかる苛酷な現実。人の絆とは何か。いつか罪は償えるのだろうか。犯罪加害者の家族を真正面から描き切り、感動を呼んだ不朽の名作。

※「殺人者の家族が社会から差別されるのは当然なのだ」と考える人も多い世の中で、本当にそうなのだろうか？加害者の家族にも罪はあるのか？差別を受けるべき人間なのか？を考えさせられます。自分が犯した犯罪のせいで家族が世の中からどんな目に合うのか、を考えてください。現実にも起こっている、人権問題にもつながる、考えさせられる深い一作だと思います。

★部活など忙しくてなかなか読む時間が取れない😓、という人には…

丸の内就職したら、幽霊物件担当でした。（竹村優希：著）



東京、丸の内。本命の一流不動産会社の最終面接で、大学生の滯は啞然としていた。理由は、怜悯な美貌の部長・長崎次郎からの簡単すぎる質問。「面接官は何人いる？」正解は3人。けれど滯の目には4人目が視えていた。長崎に、霊が視えるその素質を買われ、滯は事故物件を扱う「第六物件管理部」で働くことになり…。イケメンDな上司と共に、憑いてる物件の原因を取り除き、謎を解いていく。

元気が取り柄の新入社員の、オカルトお仕事物語！

※登場人物が魅力的です。楽しく読めます。現在、14巻まで入っています。

変身 （フランツ・カフカ：著）



平凡なセールスマンのグレゴールは、ある朝、一匹の巨大な褐色の毒虫へと変わった自分を発見する。その日から家族との奇妙な生活が始まった。非現実的な悪夢をきわめてリアルに描く、現代人の不安と孤独をあらわにした海外文学の最高傑作。

※私が高校生の時に読書感想文を書かなければならないけど本を読むのシンドイなあ、と思い、出来るだけページ数の少ない本にしようと選んだのが、この本でした。読んでみると、いきなり「朝起きたら巨大な毒虫になっていた」という、衝撃的な始まりから家族との関係などを通して家族愛や人間とは？を考えさせられる作品だと思います。短い話ですが、もし自分が朝起きたら巨大毒虫になっていたら…ありえないけど、そんなことを想像しながら読んでみてください。